Photo News フォトニュース

ホタルの光に癒されて

6月25日、第13回ホタル祭りが別府沼公園のホタルの沢で開催され、大勢の方が、はかなくも美しいホタルの光を堪能しました。

力を合わせて運動場を芝生化

6月18日、さくら運動公園多目的広場(南)において、スポーツ少年団をはじめ、多くの市民ボランティアの皆さんが参加して芝生の苗を植込みました。

熊谷で新たな生活をスタート

3月18日に開設し多くの市民の皆さんの支援を受け、東日本大震災の避難者の受入れを行ってきた旧市立女子高校一時避難所が7月2日、閉所しました。今後は、「東日本大震災オール熊谷自立支援ネットワーク」で避難者の自立を支援していきます。

避難者の皆さんと避難所ボランティアの方々

キャンペーンで節電を啓発

7月7日、「埼玉県節電の日」に、通勤時間帯の熊谷駅前で節電キャンペーンが行われました。行き交う多くの方にうちわを配布し、節電意識の啓発を行いました。

日本の文化を体験

7月3日、熊谷市国際交流協会が主催する日本語教室の一環として、星溪園で外国人の皆さんに、浴衣を着て日本の夏の過ごし方を楽しんでもらいました。

胎内くぐりで無病息災を願う

6月30日、高城神社(宮町)で、今年も多くの参拝者が鳥居に付けられた茅の輪をくぐり、今年1年の前半の穢れをはらい、残りの半年の健康を祈りました。

応募方法

ハガキまたはEメールに、クイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・今月のテーマ「スポーツ・体力づくり」についてのコメントを必ず記入のうえ、8月24日(水)までにご応募ください(一人につき一通)。※コメントがないものは無効となります。

《応募先》
〒360-8601 宮町二丁目47番地1 熊谷市広報広聴課
✉ kohokocho@city.kumagaya.lg.jp

※なお、市内の商店・企業を知っていただこうという趣旨で、当選者にはプレゼント引換券をお送りしますので、お店でご使用ください。当選者の発表は、プレゼント引換券の発送をもって代えさせていただきます。

6月号の正解
①スポーツ文化　②キャンドル
◆応募総数83通中、正解76通

今月の問題

次の□に入ることばを、それぞれお答えください。

①市では、自主防災組織および自主□組織の結成を支援しています。

②一般家庭や事業所などで壁面緑化を進めていただくため、みどりの□・コンテストを実施します。

今月のプレゼント

トミのキムチご提供の、キムチ(300g)を、正解者の中から抽選で20人に差し上げます。

トミのキムチ　所在地:円光1-14-17　電話:048-525-0029

今月のテーマ「スポーツ・体力づくり」にいただいたコメントは、「おたよりパレット」や市ホームページで紹介させていただく場合があります。

市報クイズでは、プレゼントを提供していただける商店・企業等を募集しています。詳しくは、広報広聴課 TEL 内線212までお問合せください。

シリーズ 荒川・利根川 第3回

母なる川 荒川と熊谷市

舟運養蚕で栄えた「新川村」

久下の長土手から一望できる荒川河川敷、大小の森が点在する一帯にかつて舟運と養蚕で栄えた村里がありました。

◆企画課 TEL 内線228

水運業で大いに栄えた新川村

久下の長土手から新川村を望む

江戸時代、1629年(寛永6年)に行われた「荒川の瀬替え」でできた新川の北側は「下久下村」「江川村」として、それぞれ明治初頭まで続きました。

2村は、1874年(明治7年)に合併し「新川村」となります。1887年(明治20年)の『新川村地誌』によると、東西に約1.6㎞、南北に545mの大きさで、面積29万坪、戸数94、人口532人の村だったとのことです。

新川河岸は荒川の河岸場としては最上流に位置し、明治時代の初期でも、かなりの規模を誇っていたようです。

『武蔵国郡村誌』の大里郡新川村には、村の戸数96戸に対して、荷船が46艘、渡船が4艘、荷車が12輌と記録されており、それらの多くは大型船で占められていました。このことからも、村人の多くが水運業に従事していたと思われます。農地は畑が31ヘクタール、大麦、小麦、桑、藍などを栽培していたと記されています。現在も河川敷には桑の木が見られます。

新川河岸の栄枯盛衰

江戸時代には新川河岸は、忍藩の御用河岸としての役割が大きく、年貢米が船で積み出されていました。なお、新川河岸には筏流しの際の係留場もあったようです。筏に組まれて荒川を下って来た木材を、一時的に保管する場所であり、時には筏の組み替え作業も行なわれました。

新川河岸の規模の大きさと賑わいぶりを示す事例は、意外な所でも散見できます。

新川河岸から東へ4㎞に位置する下忍神社(行田市下忍)には、1873年(明治6年)に奉納された新川早船絵馬(新川河岸の様子を描いたもの)が残っています。下忍神社は久伊豆神社と琴平神社を合祀したものですが、絵馬は地元の舟運関係者が琴平神社に奉納したものです。この絵馬は新川河岸に係わる人々の生活圏が広範囲に及んでいたことや金毘羅信仰を示す貴重な史料です。

新川早船絵馬

しかし、舟運と養蚕で栄えた新川河岸も、やがて衰退していきます。荒川の上流には蒸気船が就航できず、舟運はその役目を鉄道にとって代えられました。さらに、洪水の被害も度重なり、やがて村人は安全な堤内地への移転を余儀なくされました。

1940年(昭和15年)に移転計画が決定され、関東全域に大きな被害をもたらした1947年(昭和22年)のカスリーン台風の後、ほとんどの人々は村を去ったのでした。

おたよりパレット

市報クイズ6月号で寄せられたご意見を紹介します。

テーマ
夏を乗りきる我が家のスタミナ料理

皆さん、ご家庭で定番のスタミナ料理があるようです。美味しく、力をつけて、暑い熊谷の夏を乗りきりましょう!

※おたよりパレットは、市ホームページでも更に詳しく紹介しています ▶ http://www.city.kumagaya.lg.jp/

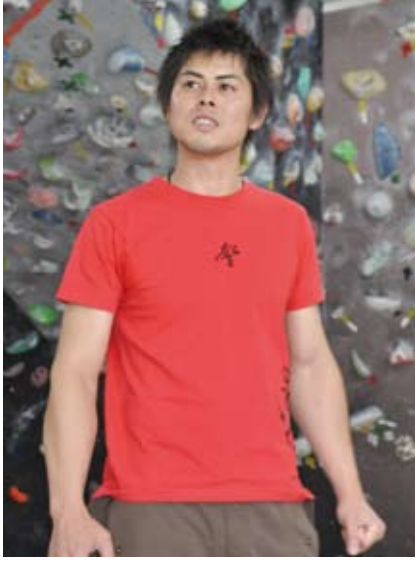
- 自宅で栽培しているゴーヤを使って、ゴーヤチャンプルを作ります。材料費はほとんどかからず、食欲のない時期でも食が進みます。(50代・女性)
- 我が家はみんなピーマンが大好きです。特にピーマンのひき肉詰めが好きで、たっぷりひき肉を詰めるので、スタミナも満点です。(30代・女性)
- 我が家のスタミナ料理は、家庭菜園で収穫したたっぷりの野菜と多めの肉が入った辛いカレーです。どんなに暑い日でも美味しいです。(70代・女性)
- なんと言ってもウナギです。大葉、キュウリ、ショウガ、ミョウガをせん切りにし、ウナギのたれと一緒にかけて食べると、ひと味違う夏の味がします。(50代・女性)
- ずばりキムチ料理です!我が家は夏になると、毎日必ず一品キムチがでます。そのせいか夏バテの経験はありません。今年もキムチパワーだ!!(50代・男性)

情熱世代

夢追い人

無心になれる魅力を多くの人に伝えたい

クライマー
滝沢 篤（たきざわ あつし）さん（原島）



クライミングとの出会い

23歳の時、友人に誘われクライミングジムに行ったのが始まりです。当初、危険だから行くのはやめようと話していたのは私でした。しかし、意外に登れないのが悔しくて毎日のようにジムに通う日々が続きました。そんな姿がジムの社長の目に留まり、趣味であったクライミングが仕事になり、ジムの熊谷店オープンとともに熊谷に引っ越してきました。競技をはじめてから10年、前半の5年間は別の仕事をしながらの趣味として、後半の5年間は仕事として、休日は自然の岩場にクライミングに行くことが多くなりました。目標とする課題の岩場が登れても登れなくても自然の中に身をおくことは気持ちいいです。

挑戦しつづけることがモチベーション

私が現在行っているのはボルダリングというクライミングで、数メートルの岩や石を補助器具無しで登るスポーツです。登る難易度を表すグレードは、10級からはじまり難しくなるにつれ9級から1級、初段、2段…となります。国内では4段を登れるようになり、以前はジャパンカップ等の室内の競技会に出場もしていました。現在の自分のモチベーションを高めているのは、自然の岩場の課題に挑戦することです。自分の体を自分の手と足だけで支えなければならないため怪我をすることもありますが、怪我を乗り越えるたびに体は強くなりました。国内の難しい課題がある岩場、特にルーフ（屋根のように突き出た）状の壁に惹かれ、関東、中部地方まで出かけています。

課題に挑戦中の滝沢さん

無心になり自分の手と足だけで登る魅力

いかにいつまでも挑戦していけるか。自分の限界を超えていけるか。国内外を問わず難しい課題の岩場を多く登り、若い人やこれからクライミングを始める人に、楽しさや、登る時に無心になれる魅力を伝えたい。まだ、競技人口の少ないクライミングですが、アウトドアの一部として楽しいスポーツであることを知ってもらいたい。子どもたちにはいろいろなスポーツを経験して、自分の体を動かし何か感じられるものを持ってほしいです。それがクライミングだとより嬉しいですね。

市内の名所やちょっとした景色を楽しみながら、ウォーキングができるコースをご紹介します。運動不足解消や新たな熊谷の発見など、楽しみ方をさがすのも良いかもしれませんね。
◆スポーツ振興課 TEL 内線 391

第４回 かめの道 大幡コース

歩く距離　約２．０ｋｍ

- Ⓐ かめの道（石原北）
- ↓（280 m）
- Ⓑ 大原稲荷神社
- ↓（320 m）
- Ⓒ 熊谷農業高校実習地
- ↓（1,400 m）
- Ⓓ 大幡児童館

コースの概要
かめの道（石原北）をスタートして、熊谷バイパス下の終点まで２km のコースです。熊谷農業高校を過ぎると、歩道が整備された住宅地を歩きます。

Ⓑ地点付近

Ⓒ地点付近

ウォーキングのポイント
- 歩幅は、肩幅の 1.5 倍が目安。
- 自分のペースで風を感じる速さで歩く。
- 専用シューズを利用してアクティブに。

ウォーキングポイントカードにためて、300km 達成したら、ささやかな景品を贈呈します。ウォーキングポイントカードは、スポーツ振興課に置いてあるほか、市ホームページからもダウンロードできます。

人口と世帯
●平成 23 年 7 月 1 日現在（対前月比）
■人口　204,810 人（-93）　男　102,484 人（-71）　女　102,326 人（-22）　■世帯　82,682（+35）

「市報くまがや」７月号は、72,000 部作成し、広告料収入を差し引いた印刷・製本にかかる市の負担は、１部当たり 15 円です。
「市報くまがや」は、再生紙を使用しています。

●発行日 平成23年8月1日 ●発行 熊谷市
●編集 広報広聴課 〒360-8601 熊谷市宮町二丁目47番地1
TEL 048-524-1111（内線206） FAX 048-520-2870
「市報くまがや」は、毎月1日（原則）に発行し、自治会を通してお届けします。また、市役所・行政センター・出張所・公民館・駅連絡所などでもお配りしています。インターネットでも「市報くまがや」をご覧になれます。（URL）http://www.city.kumagaya.lg.jp/